

2008年3月期 決算説明会資料


6年連続増益、過去最高益を更新 ～ 営業利益は491億円を達成 ～

2008/04/24

◎ 株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 大林 秀仁

2008年3月期 決算説明会



2008年3月期 決算概要



2009年3月期 業績予想概要



参考: データ集

2008年3月期 決算概要

(注)YY/M(e)はYY年M月期予想を表しています。

2008年3月期決算(ハイライト)



	金 額(億円)	前期比	前回予想比
売上高	9,431	1%	+0%
営業利益	491	+9%	+14%
経常利益	487	+10%	+15%
当期利益	269	+3%	+5%
一株利益	195円80銭	+5円99銭	+9円69銭
一株配当	30円00銭	+5円00銭	+5円00銭

1. 全項目で予想値を上回る
2. 営業利益・経常利益・当期利益は6年連続増益、過去最高値を更新
3. 一株配当金は5円増配し、30円00銭/年(連結配当性向15.3%)

(注) 前回予想は、2008年1月の第3四半期決算発表時の見通し

2008年3月期決算(偏差説明)

対前回予想値(2008年1月3Q決算発表時)比較

1. 売上高 (9,400億円 9,431億円 + 31億円)

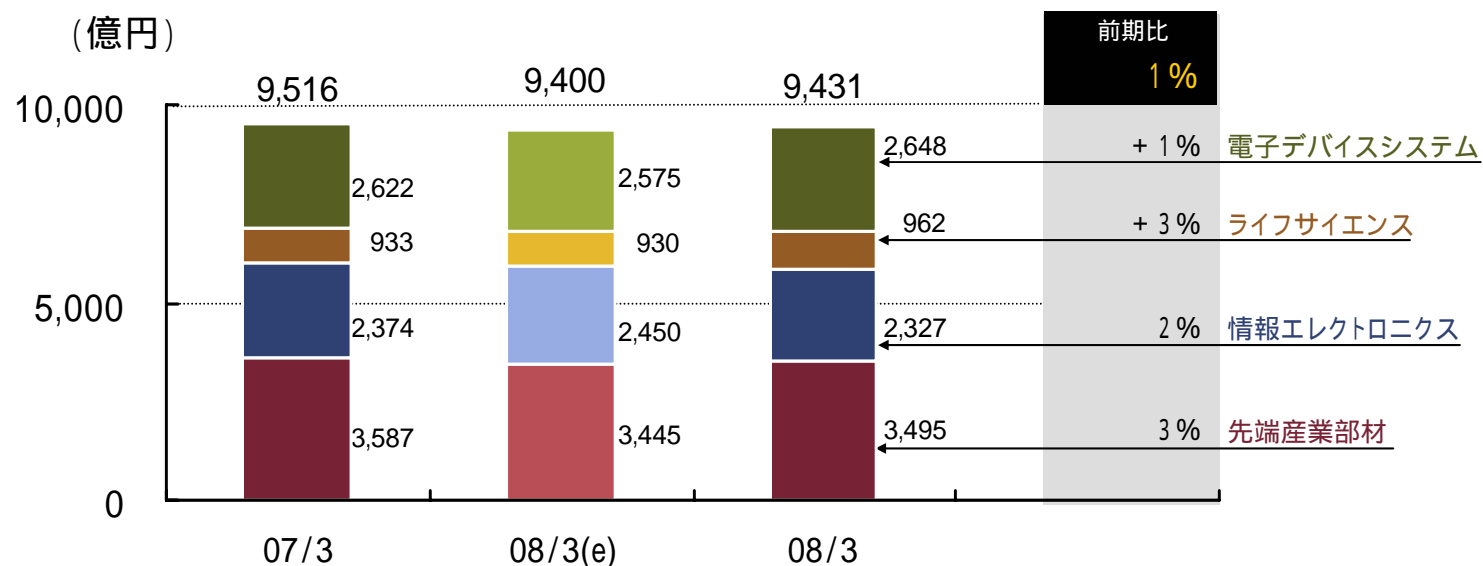
- 電子デバイスシステム: 半導体・液晶関連製造装置の好調により73億円増
- ライフサイエンス: 欧米向医用分析装置の好調等により32億円増
- 情報エレクトロニクス: チップマウンタの納期後倒し、ブロードバンド関連製品の販売減少等により123億円減
- 先端産業部材: 素材価格の高値継続や液晶関連部材の需要増等により50億円増

2. 営業利益 (430億円 491億円 + 61億円)

- 電子デバイスシステム: 販売増加に加え、コスト低減等により31億円増
- ライフサイエンス: 欧米向け医用分析装置の好調等により24億円増

2008年3月期実績(売上高)

売上高



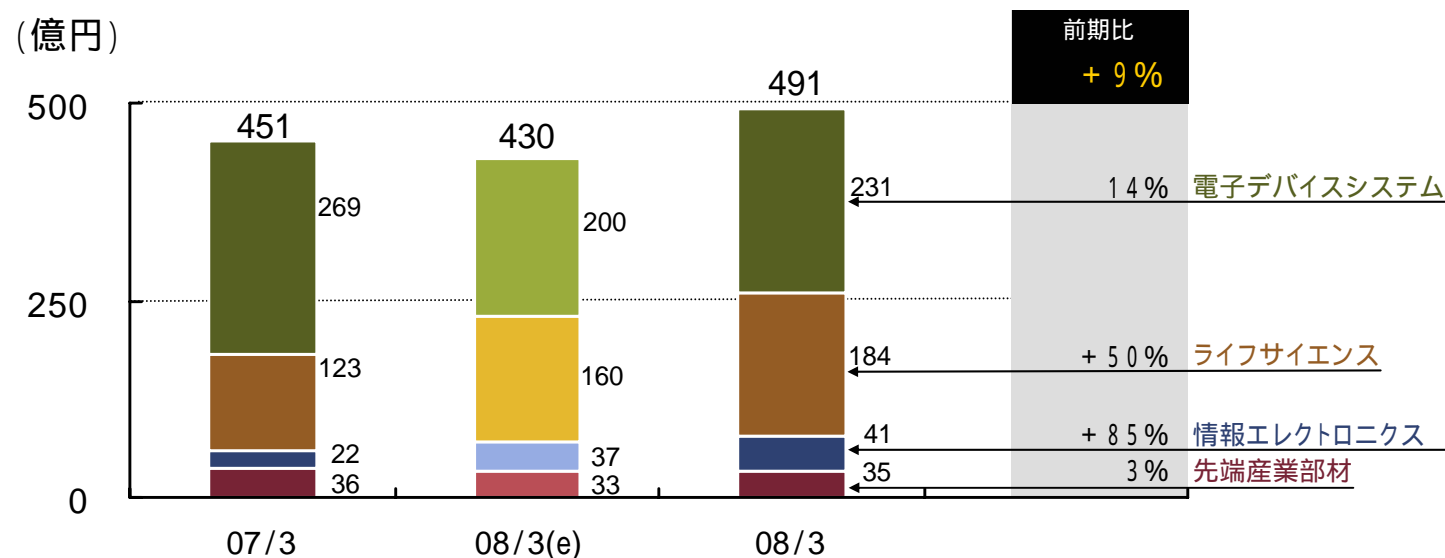
(注) 08 / 3 (e)は、2008年1月の第3四半期決算発表時の見通し

前期比 増減説明

- 電子デバイスシステム: 半導体・液晶関連製造装置(共に商事品)の貢献等で増加
- ライフサイエンス: 欧米向け医用分析装置の貢献等で増加
- 情報エレクトロニクス: アジア向け半導体デバイスの販売減等で減少
- 先端産業部材: 機能部品、光学部品の取扱減等により減少

2008年3月期実績(営業利益)

営業利益



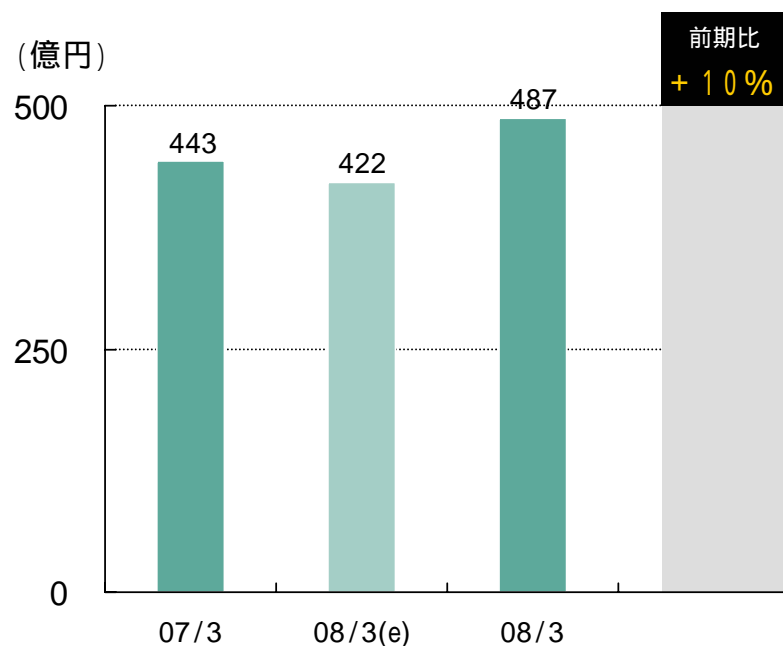
(注) 08/3(e)は、2008年1月の第3四半期決算発表時の見通し

前期比 増減説明

- 電子デバイスシステム: 液晶・HD関連製造装置の需要減等により減少
- ライフサイエンス: 欧米向け医用分析装置の好調持続等により増加
- 情報エレクトロニクス: 携帯電話用半導体デバイスの損益改善等により増加

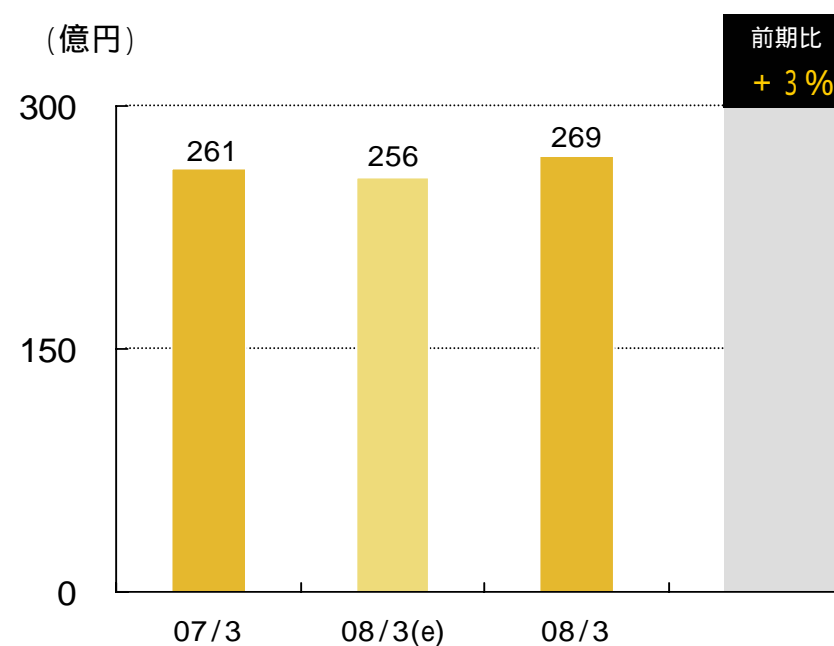
2008年3月期実績(経常利益・当期利益)

経常利益



(注) 08/3(e)は、2008年1月の第3四半期決算発表時の見通し

当期利益

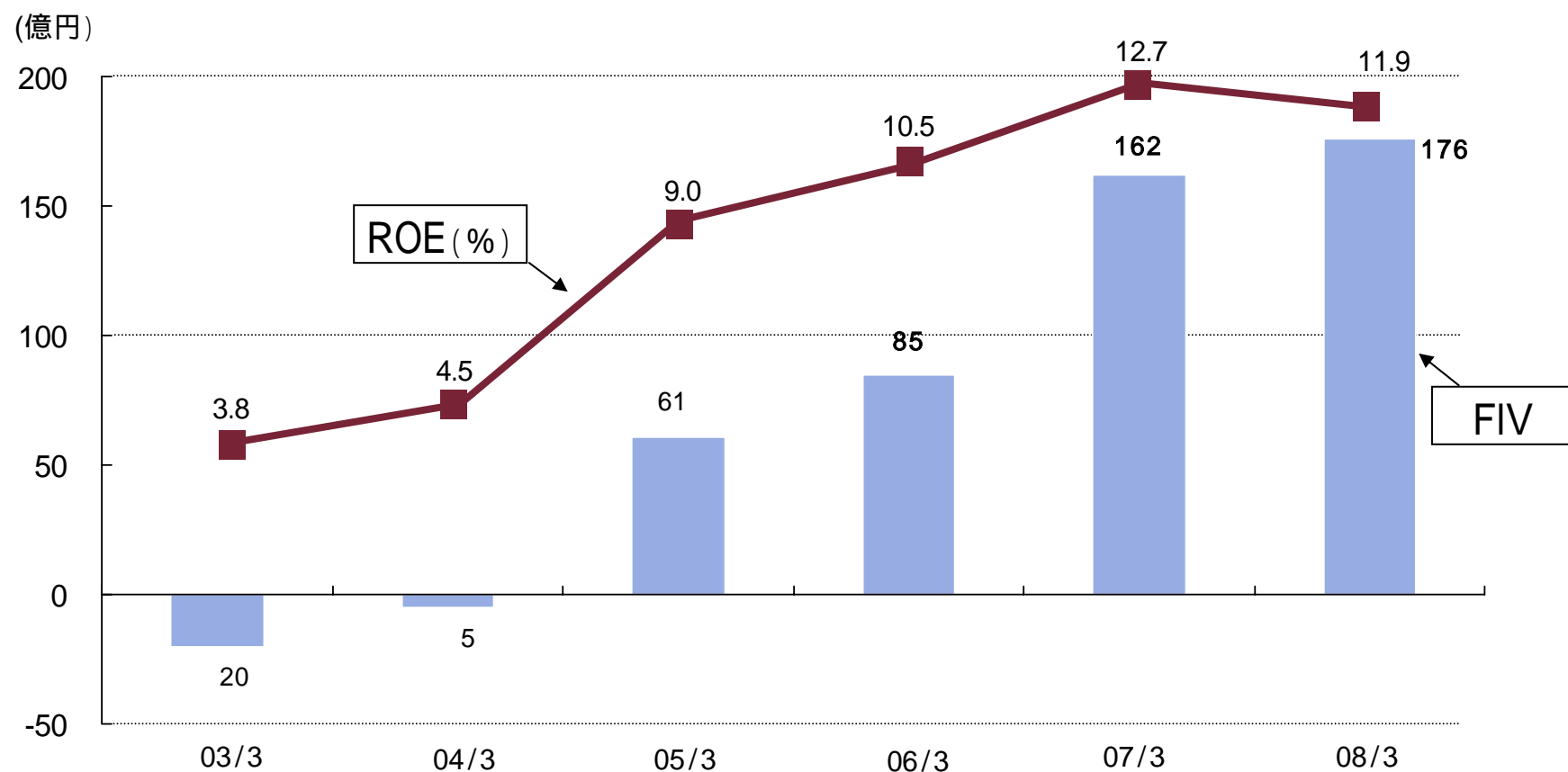


前期比 増減説明

- 営業利益の増加、たな卸資産評価損の減少等により経常利益増加
- 法人税等調整額の増加等により当期利益は微増

2008年3月期実績 (FIV・ROE)

FIV (日立式経済付加価値)・ROE



(注) FIV (Future Inspiration Value) = 税引後事業利益 - 投下資本コスト
 投下資本コスト = (株主資本 + 有利子負債 + リース資産) × WACC

財政状態(貸借対照表(要約))

2008年3月末 (億円)

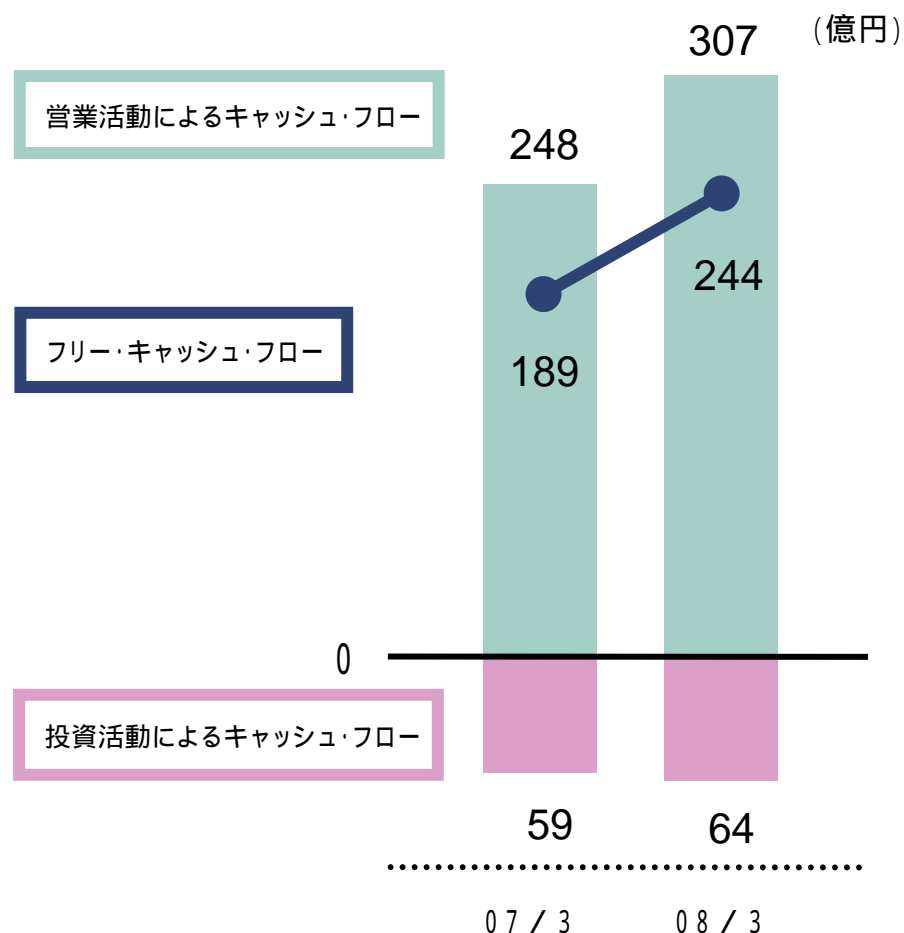
			前期末比				前期末比
流動資産		4,116	+ 308	流動負債		2,428	+ 119
現預金、関係会社預け金	718	+ 125		支払手形及び買掛金	1,781	+ 74	
受取手形及び売掛金	2,474	+ 130		その他	647	+ 45	
たな卸資産	671	+ 9		固定負債		270	10
その他	254	+ 44		退職給付引当金	258	9	
固定資産		932	61	その他	12	2	
有形固定資産	587	+ 16		純資産		2,351	+ 138
無形固定資産	38	+ 1		株主資本	2,323	+ 235	
投資その他の資産	307	79		評価・換算差額等	26	48	
				少数株主持分	2	49	
資産合計		5,049	+ 247	負債及び純資産合計		5,049	+ 247

ポイント説明

- 自己資本比率: 46.5% (前期末比 + 1.5%)
- 一株当たり純資産: 1,707円69銭 (前期末比 + 135円55銭)

財政状態(キャッシュ・フロー)

キャッシュ・フローの状況



ポイント説明

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー (08 / 3)

・税引前利益	484億円
・減価償却費	89億円
・運転資金	98億円
・法人税等支払	211億円 他

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー (08 / 3)

・固定資産取得・売却	65億円 他
------------	--------

* 現金及び現金同等物の期末残高 779億円
(前期末比 +186億円)

2009年3月期 業績予想概要

(注)YY/M(e)はYY年M月期予想を表しています。

2009年3月期業績予想(ハイライト)

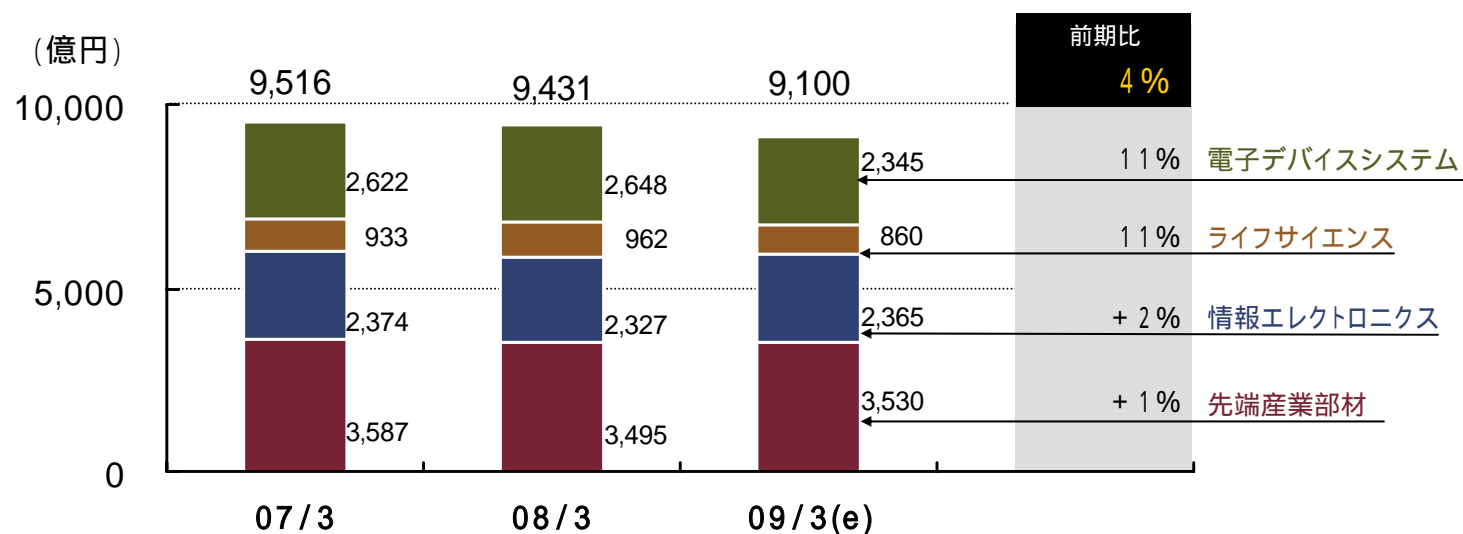


	当期予想(億円)	前期実績(億円)	前期比
売上高	9,100	9,431	4%
営業利益	430	491	13%
経常利益	430	487	12%
当期利益	268	269	0%
一株利益	194円84銭	195円80銭	0円96銭
一株配当	30円00銭	30円00銭	—
ROE	10.9%	11.9%	1.0%
FIV	135	176	40億円

(注)想定レート: 1USD = 105円
1EUR = 155円

2009年3月期業績予想(売上高)

売上高

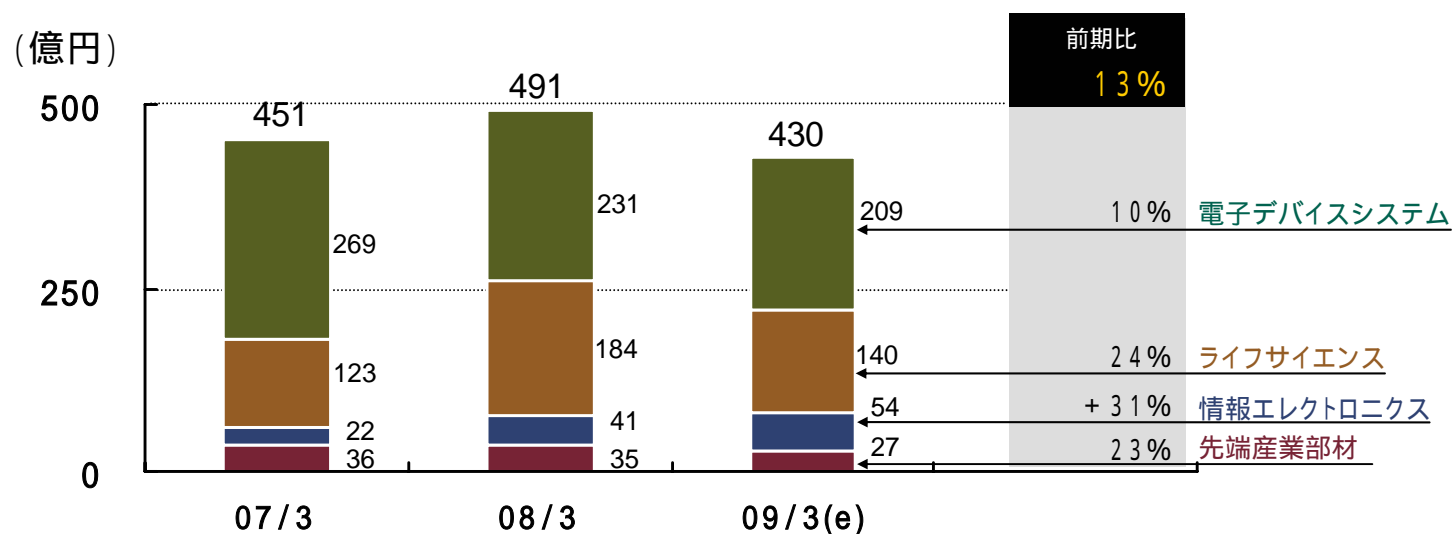


前期比 増減説明

- 電子デバイスシステム: 半導体・HD関連製造装置の投資減等により減少
- ライフサイエンス: 欧米向け医用分析装置の年度後半の調整リスク等を織り込み減少

2009年3月期業績予想(営業利益)

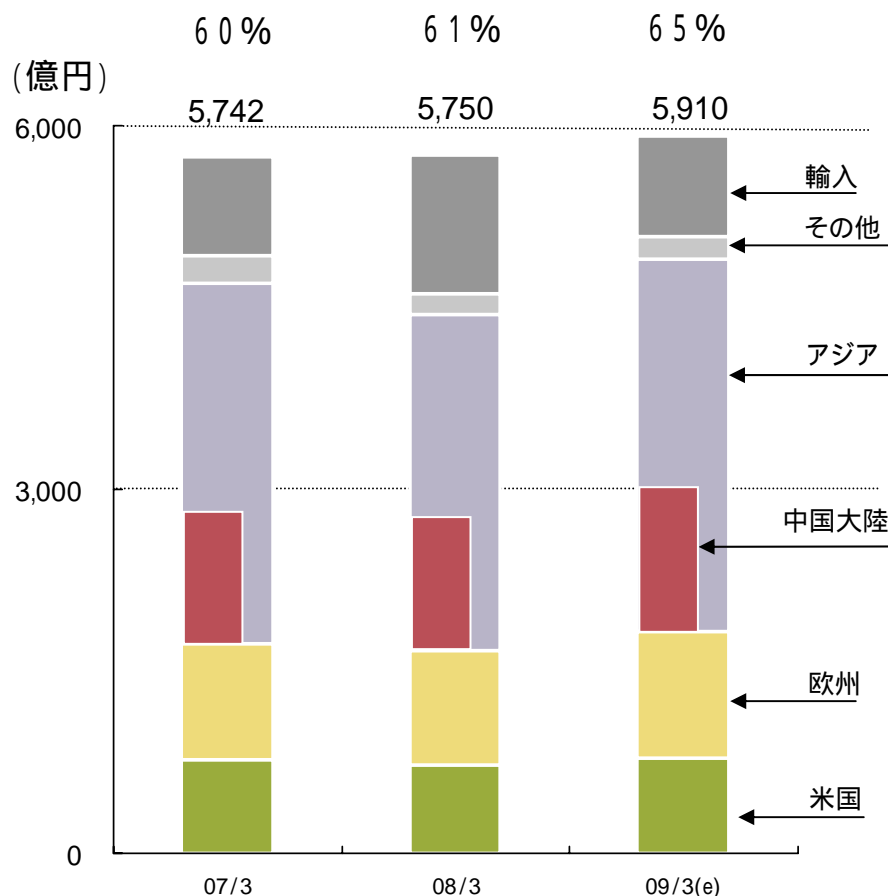
営業利益



前期比 増減説明

- 電子デバイスシステム: HD関連製造装置の売上減等により減少
- ライフサイエンス: 欧米向け医用分析装置の年度後半の調整リスク等を織り込み減少
- 情報エレクトロニクス: チップマウンタの拡販等により増加
- 先端産業部材: 営業開発投資増加等により減少

海外取引高比率



(注) 海外取引高とは、海外売上高と輸入品国内販売高の単純合算値

グローバルビジネス戦略

1. 事業展開策

- ・リーディング顧客とのコラボレーション強化・拡大
- ・主要パートナーとの連携強化
- ・コンソシアム活用によるコア技術の獲得

2. エマージング市場対応の強化

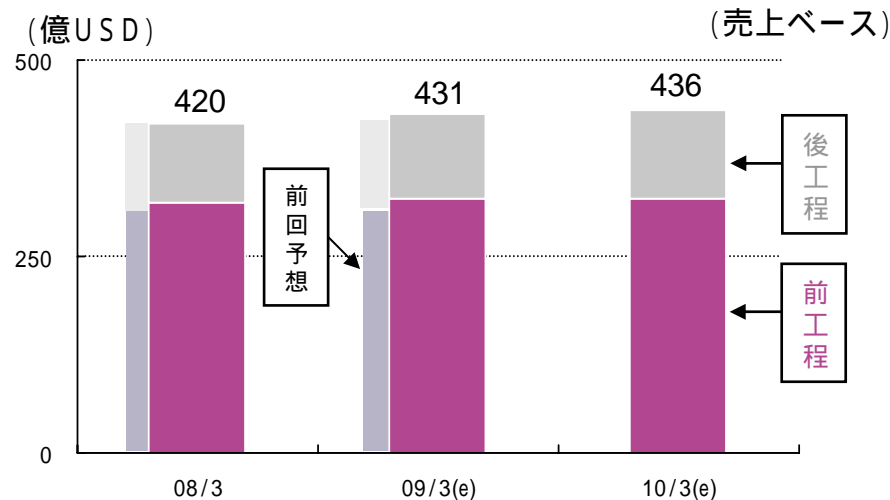
- ロシア (07年出張所開設)
- メキシコ (07年出張所開設)
- インド (07年支店化)
- ベトナム (06年出張所開設)
- ブラジル (06年体制強化)

3. ローカリゼーションの深化

- ・現地社員中心の海外拠点運営を目指した人財の確保育成

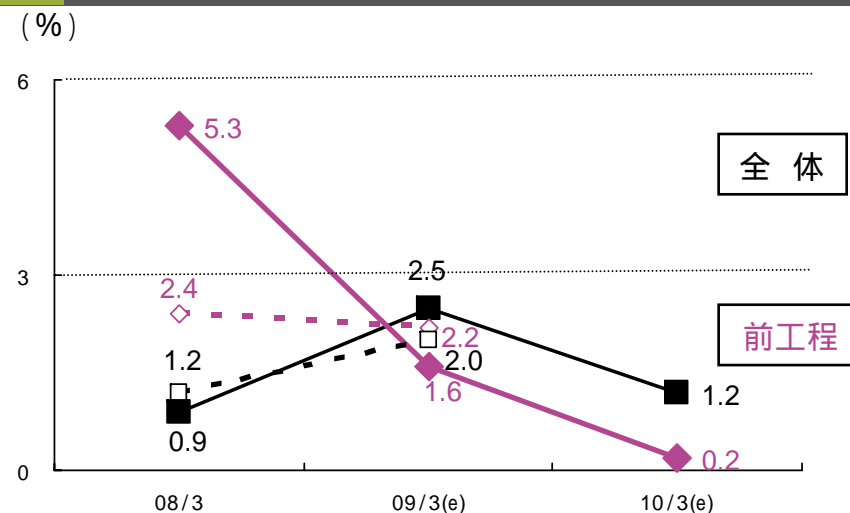
市場動向(半導体製造装置)

半導体製造装置市場



(出所) SEMIの07年12月迄の実績値及び当社推測

半導体製造装置市場(前期比伸び率)



(注) 前回予想は、07年10月の07年9月期中間決算発表時の見通し

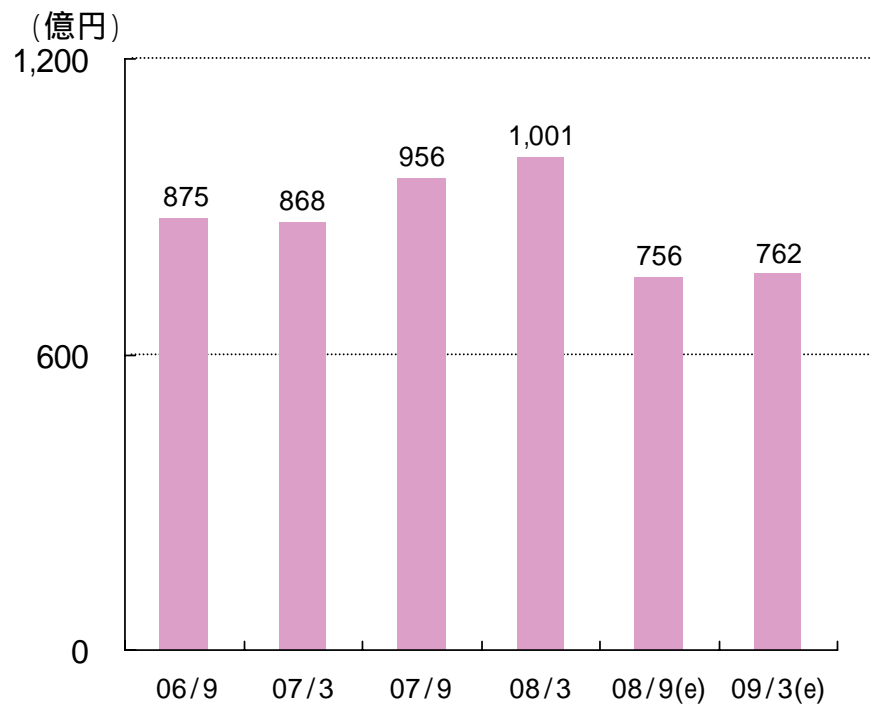
< 前回予想 >		08/3	09/3(e)
□	(全体)	1.2%	2.0%
◇	(前工程)	2.4%	2.2%

状況説明

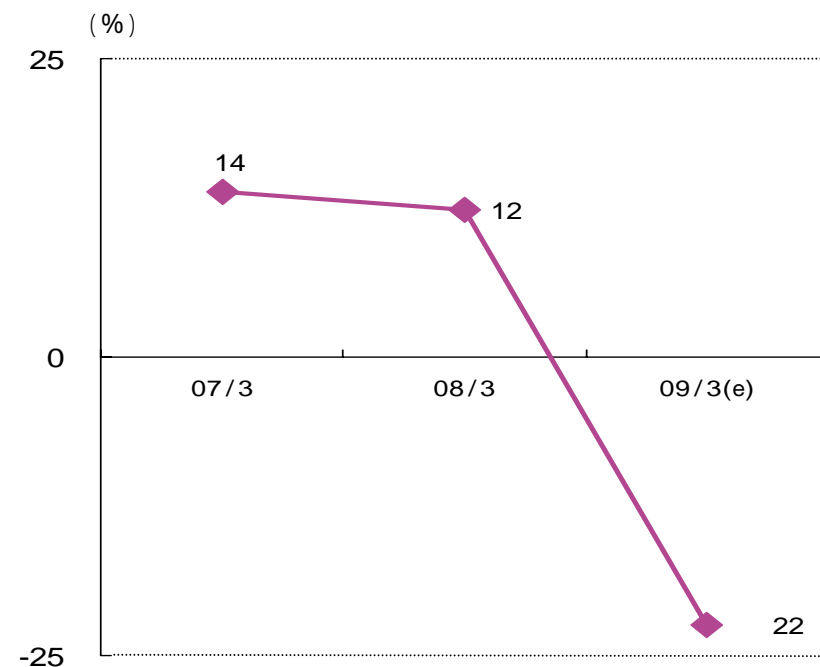
- ・07年度の半導体製造装置市場は、DRAMメーカーが大幅な価格下落にも係わらず設備投資を継続、前回予想と同レベルの0.9%のプラス成長を予想
- ・08年度は、前半はマクロ経済の減速に加え、DRAMの供給過剰感等から設備投資は減少を予想するが、後半にはDRAM価格の緩やかな改善、DDR3の本格市場投入等により投資が再開、市場成長率は横ばい(ないしは若干のマイナス)に収まると予想
- ・09年度は、サブプライム・ローン問題の後遺症等からマクロ経済は勢いを欠き、半導体市場は最終製品の低価格化傾向から成長が鈍化、装置市場もほぼ横ばいを見込む

受注高の推移 (半導体製造装置)

連結受注高の推移



連結受注高の推移 (前年度比伸び率)

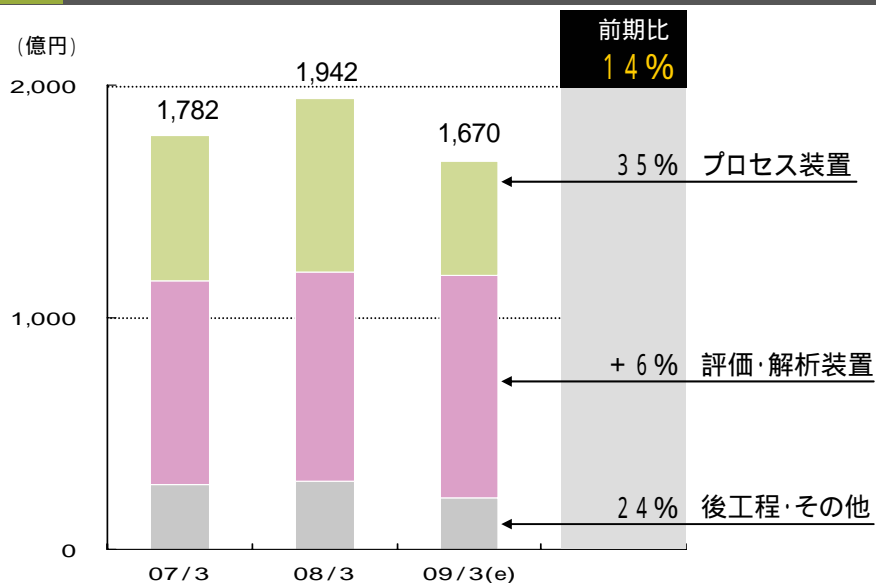


状況説明

- ・ 08 / 上 : 国内外顧客の投資抑制により、自社品、商事品とも受注環境は厳しく、前年同期比 21%を予想
- ・ 08 / 下 : 顧客投資回復を一部織り込むも、前年同期比 24%を予想
- ・ 08年度 : 上記により、前年度比 22%を予想

売上高の推移(半導体製造装置)

主要製品群別売上高の推移



前期比増減説明と今後の取り組み

プロセス装置

- ・プロセス装置全体では、市場リスク等を織り込み減少
- ・エッチング装置は、年度後半からの投資再開、アジア顧客向けの受注加速により前年度を上回る計画

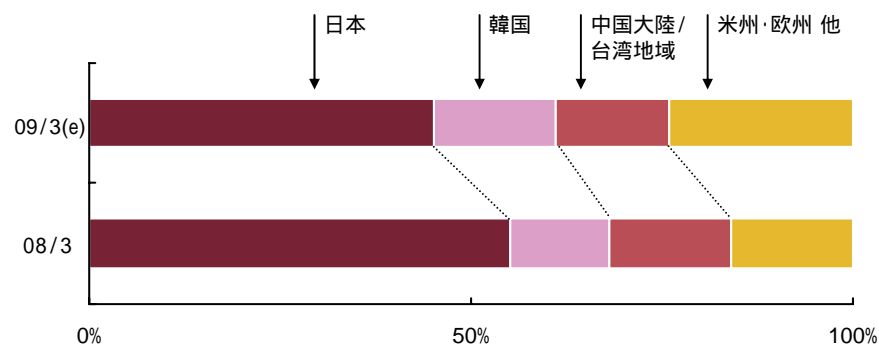
評価・解析装置

- ・測長SEMは、市況の悪化あるも、新製品・新機能投入により、前年度と同じレベルの売上を見込む
- ・検査装置は、レビューSEM、暗視野検査装置とも性能をアップ、シェア獲得により前年度を上回る計画
- ・解析装置は、自動車、高機能材料等の分野をはじめ、国内外のR&D投資も取り込み堅調な売上を見込む

後工程装置(ダイボンダ)

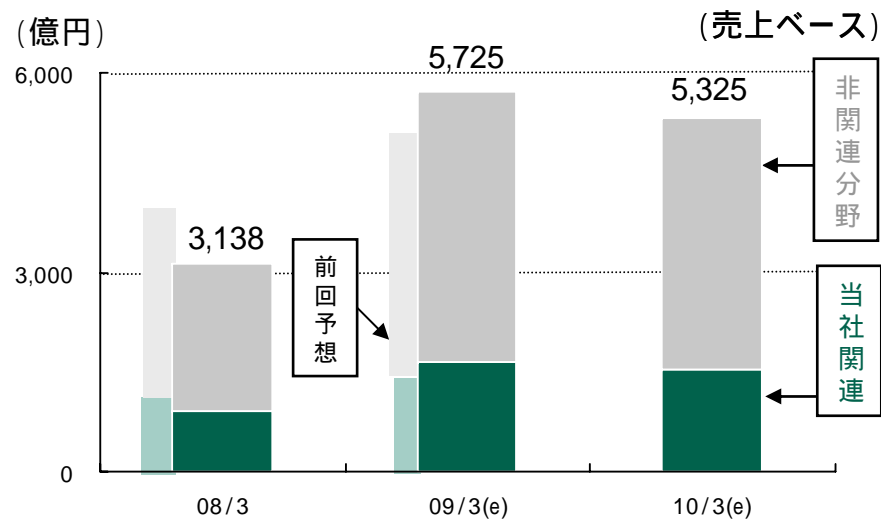
- ・07年度の反動で投資再開が遅れることが予想され、前年度比減少の見込み

地域別売上高比率



市場動向(液晶関連製造装置)

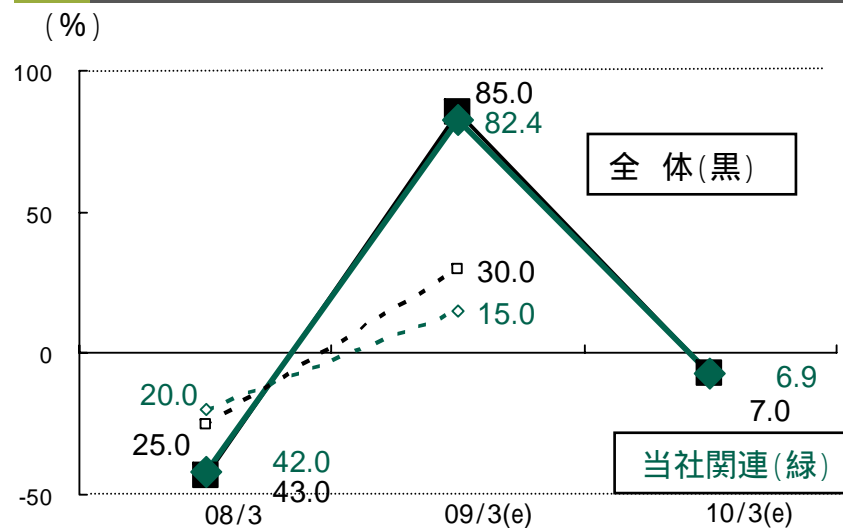
液晶関連製造装置市場



(出所) SEAJ (08年1月) データに基づき当社にて推測

(注) 前回予想は、07年10月の07年9月期中間決算発表時の見通し

液晶関連製造装置市場(前期比伸び率)



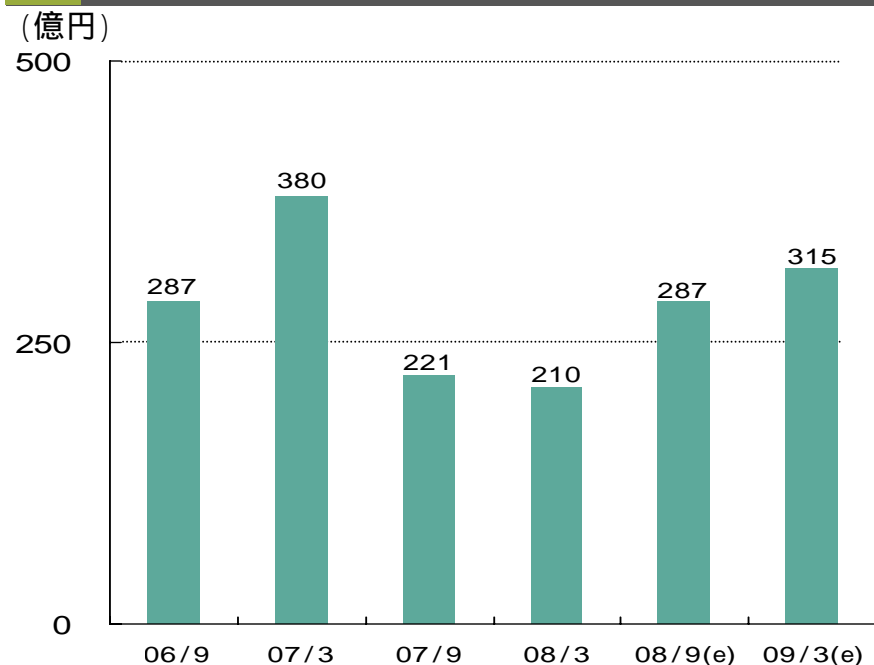
< 前回予想 >		08 / 3	09 / 3(e)
□	(全体)	25.0%	+30.0%
◇	(当社関連)	20.0%	+15.0%

状況説明

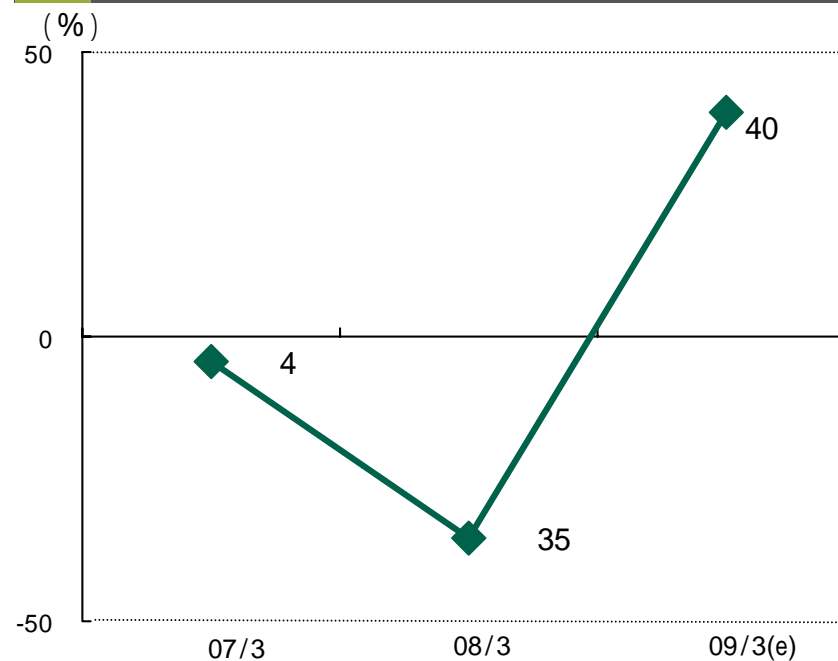
- ・07年度の液晶関連製造装置市場は、韓国・台湾パネルメーカーを中心に計画延期や縮小の影響から、前回予測からさらに悪化、前年度比約 43%と大幅に減速
- ・08年度は、パネルメーカーの収益好転と、前期投資抑制の反動で投資計画が活発化し、前年度比プラス85%と大幅増の見込み

受注高の推移 (液晶関連製造装置)

連結受注高の推移



連結受注高の推移 (前期比伸び率)

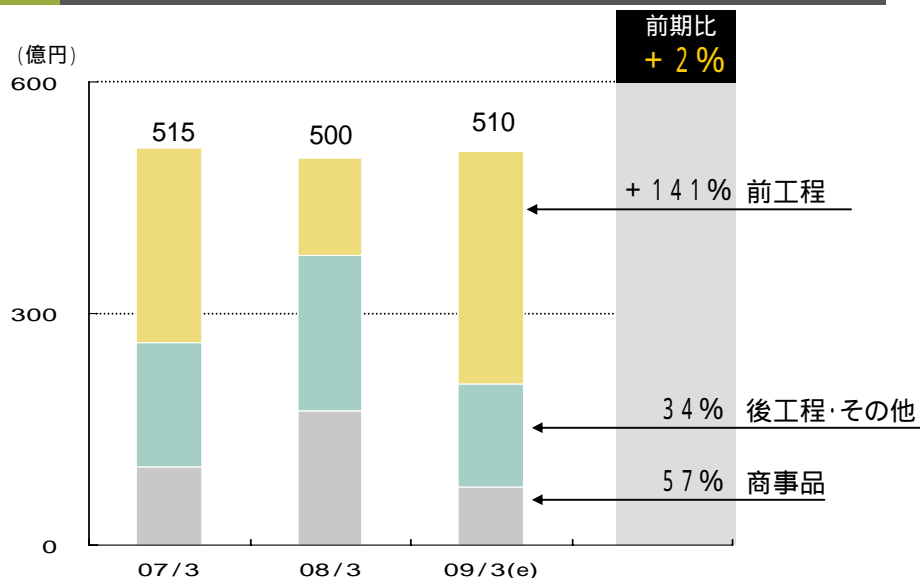


状況説明

- ・08 / 上: 実装装置は投資サイクルの影響で減少するが、前工程の投資集中による露光装置の受注増加で、前年同期比30%アップを予測
- ・08 / 下: 前工程投資継続に加え、実装装置も前工程投資拡大を受けた増産対応受注が始まり、前年同期比50%アップを予測
- ・08年度: 上記により前年度比+40%と予測

売上高の推移 (液晶関連製造装置)

主要製品群別売上高の推移



前期比増減説明と今後の取り組み

前工程

投資の中心はG8以上に移行、売上比率は約50%に達する見込み
年度後半にG10対応装置を市場投入予定

- ・露光装置は、各社の投資回復で売上大幅増を見込む
- ・ウエットプロセス装置は、G10対応装置等高付加価値製品にシフト

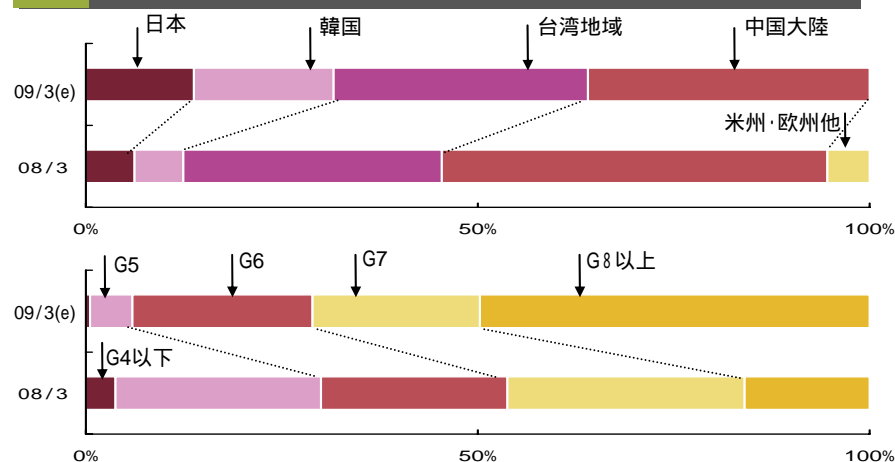
後工程・その他

- ・実装装置は、投資一巡により減少
- ・年度後半の投資回復に向け、新製品を開発中

商事品

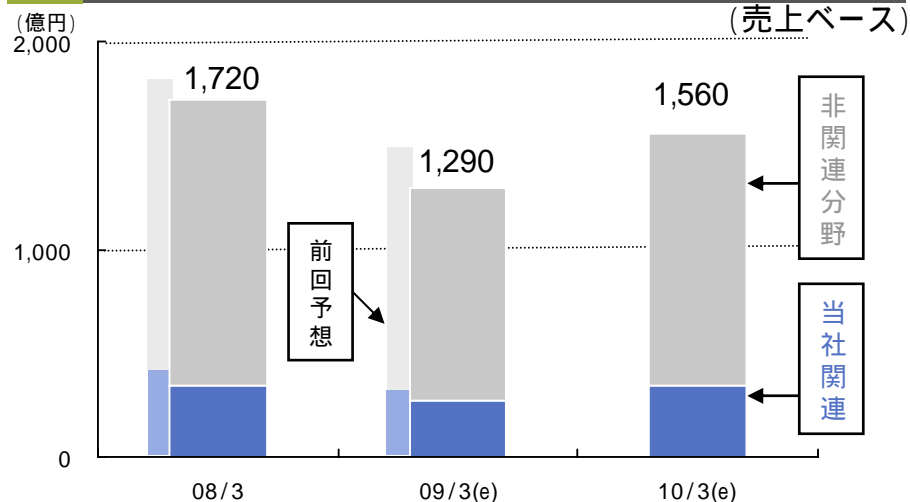
- ・大型投資案件のあった前年度に比べ大幅減

地域別・世代別(前工程装置)売上高比率

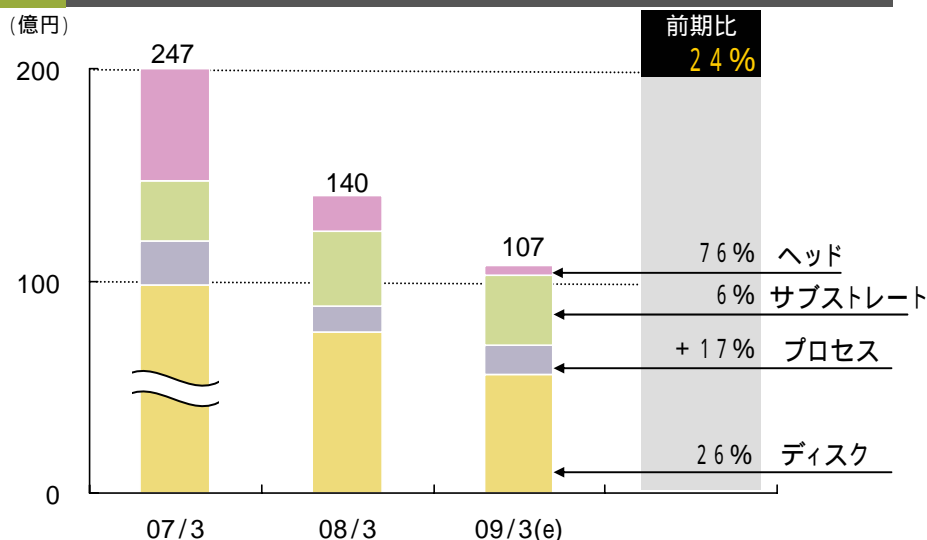


市場動向及び売上高の推移 (HD関連製造装置)

HD関連製造装置市場



主要製品群別売上高の推移



HD関連製造装置市場状況説明

- ・07年度、08年度共に、06年度までの過剰投資の影響大で前回予想からさらに悪化
- ・08年度は後半に回復基調になるも動きは鈍く、前年度比 25%と厳しい状況が続く

前期比増減説明と今後の取り組み

- ヘッド関連装置
 - ・主要顧客の投資抑制により大幅減
 - ・R&D用途など新規顧客開拓を推進
- サブストレート関連装置
 - ・高密度化に向け、ガラス用の投資は堅調に推移するもアルミ用は投資減少
 - ・高機能対応で継続受注確保を目指す
- プロセス関連装置
 - ・投資は依然慎重なるも、高機能要求対応の新製品を投入、新規顧客開拓による売上増を目指す
- ディスク関連装置
 - ・年度後半には回復の兆しがあるも大幅減
 - ・光学式検査方式の新製品投入と新規顧客開拓を図る

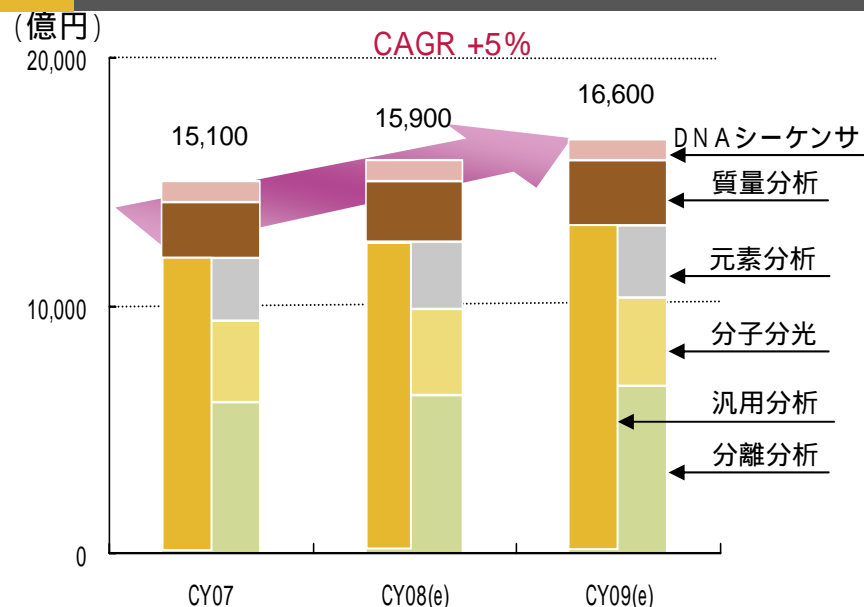
< 高密度化技術への対応 >

- ・新技術 (DTM/BPM) 対応装置の開発加速

(注) 前回予想は、07年10月の07年9月期中間決算発表時の見通し

市場動向(ライフサイエンス関連事業)

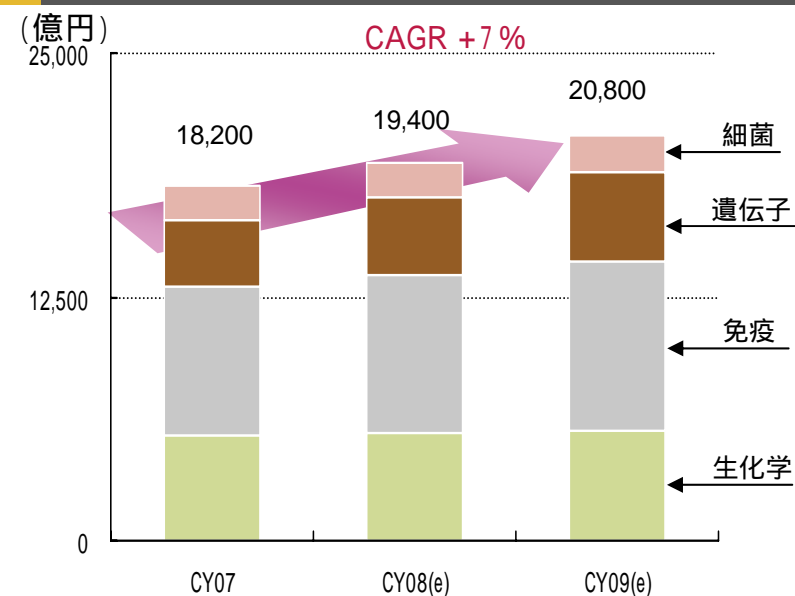
ラボ用分析及び生命科学機器市場概況(当社関連)



(出所)SDi Report 9th Edition(2006)を基に当社推定

- DNAシーケンサ:装置市場は飽和
- 質量分析分野:8%の堅調な伸び
 - ・タンパク質構造解析からバイオマーカー(診断・毒性等)へ展開
- 汎用分析分野:伸長は鈍化
 - ・液体クロマトグラフは6%の伸び
 - ・超高速対応の液体クロマトグラフの急伸を予想

体外診断関連市場概況(当社関連)

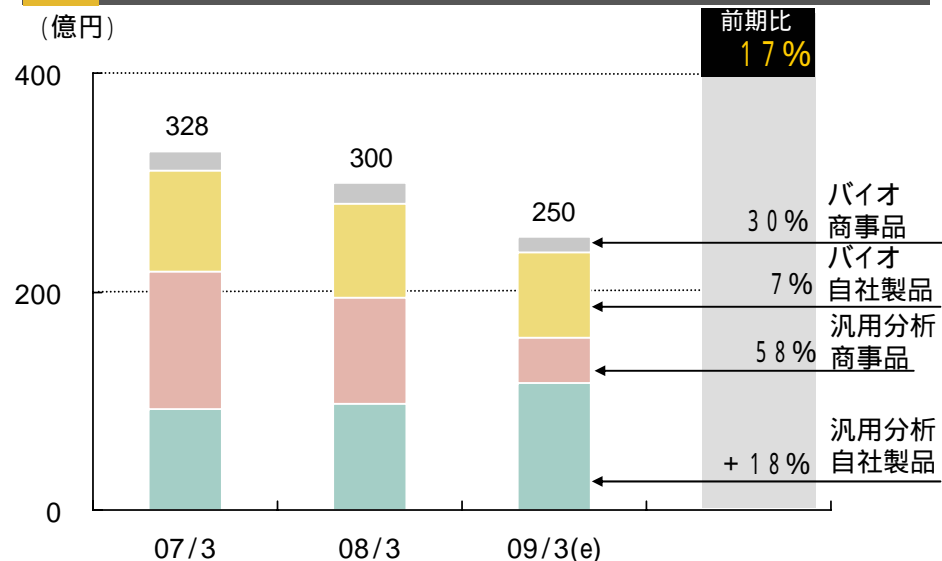


(出所)Kalorama Information 5th Edition(2006)を基に当社推定

- * 体外診断当社関連分野:7%の成長
 - 遺伝子診断分野:感染症を中心に16%成長
 - 免疫分野:7%伸長
 - 生化学分野:ほぼ横ばい
- * 日本市場は、総医療費抑制政策により伸び率は3%と鈍化

売上高の推移(バイオ・分析関連事業)

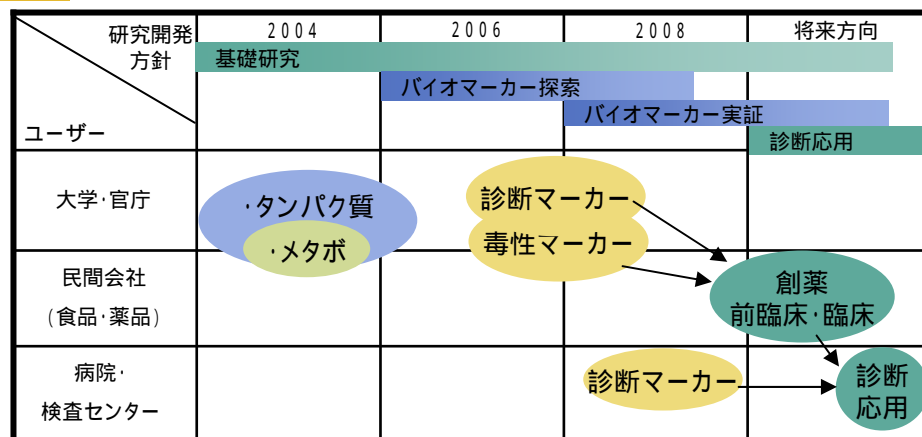
売上高の推移



前期比増減説明と今後の取り組み

- ・商事品見直し・自社品強化により事業構造再構築
- ・新アプリケーション・周辺機器の投入により、超高速液体クロマトグラフを立上げ
- ・ECD (電子捕獲解離) 技術を応用したLC-MSの上位機種投入により、タンパク質解析機能向上とバイオマーカー探索市場への展開を図る
- ・遺伝子鑑定・臨床応用等の市場対応強化により、DNAシーケンサの業容を確保

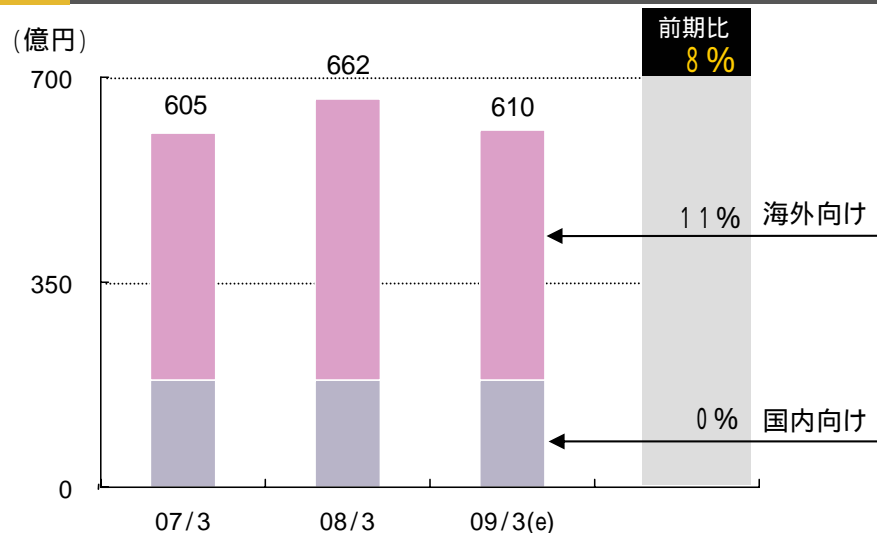
バイオ・分析事業の方向性



- ・LC-MSによるタンパク質・低分子物質の構造解析とバイオマーカー探索市場への展開
- ・国立がんセンターとの共同研究:
ラボ用分析装置の医用・診断用途への展開に向け
コラボレーションを推進

売上高の推移 (医用関連事業)

売上高の推移

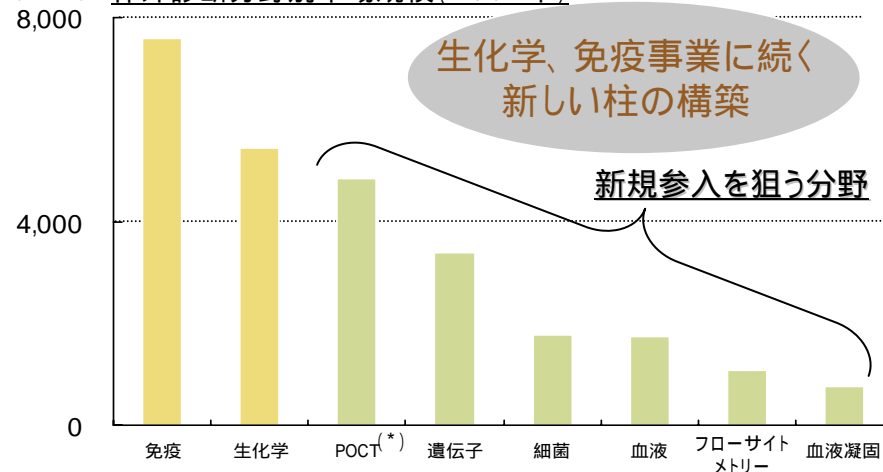


前期比増減説明と今後の取り組み

- ・市場成長率を上回る業績を達成(05～08年度 CAGR10%)してきたが、年度後半の調整リスクを織り込み、前年度比減少
- ・海外向けは、中規模機の拡販継続に加え、新小形免疫装置の拡販を目指す
- ・国内向けは、リモートサポートサービス導入に伴う新たな付加価値の提供により需要を喚起

医用関連事業の方向性

(億円) 体外診断分野別市場規模(2007年)



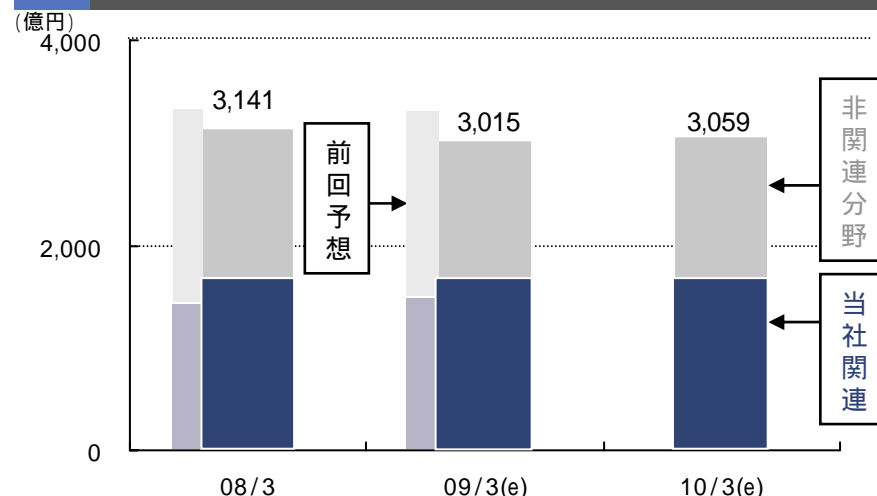
- ・生化学自動分析装置(1970年市場参入)、免疫分析装置(1995年市場参入)に次ぐ、新しい柱の構築
- ・仏ビオメリュー社との細菌検査事業を中心としたシステム共同開発のアライアンスを開始(2008年2月)

(*)POCT:Point of Care Testing(その場検査)

(出所)Kalorama Information 5th Edition(2006)を基に当社推定

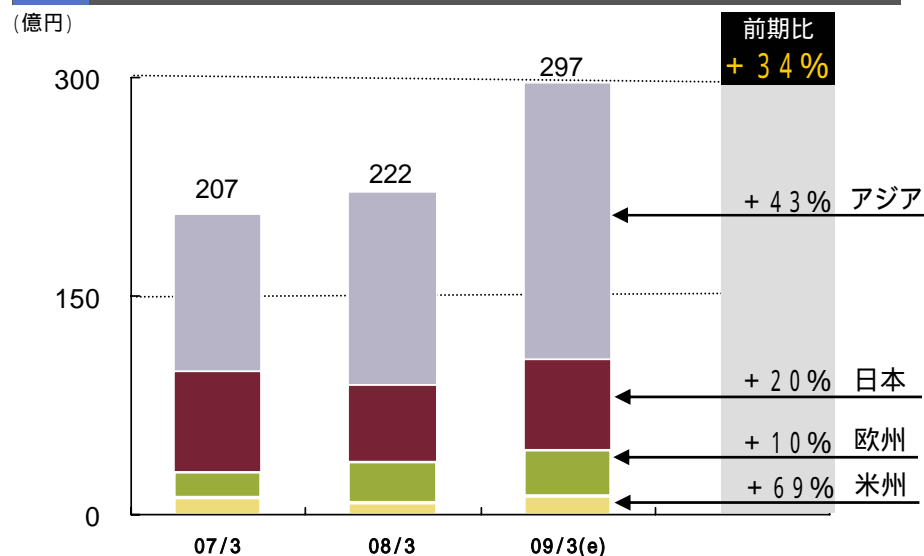
市場動向及び売上高の推移(チップマウンタ)

チップマウンタ市場



(出所) 日本ロボット工業会資料(07年11月)調査機関資料に基づき当社作成

売上高の推移



状況説明(当社関連市場)

- ・07年度は、前半に中国・東南アジアで設備投資が増加するも後半に減速
- ・08年度は、米国の景気減速によりEMS(*)等の設備投資は減少するが、BRICs市場向け投資増がこれをカバーし、ほぼ横ばいと予測

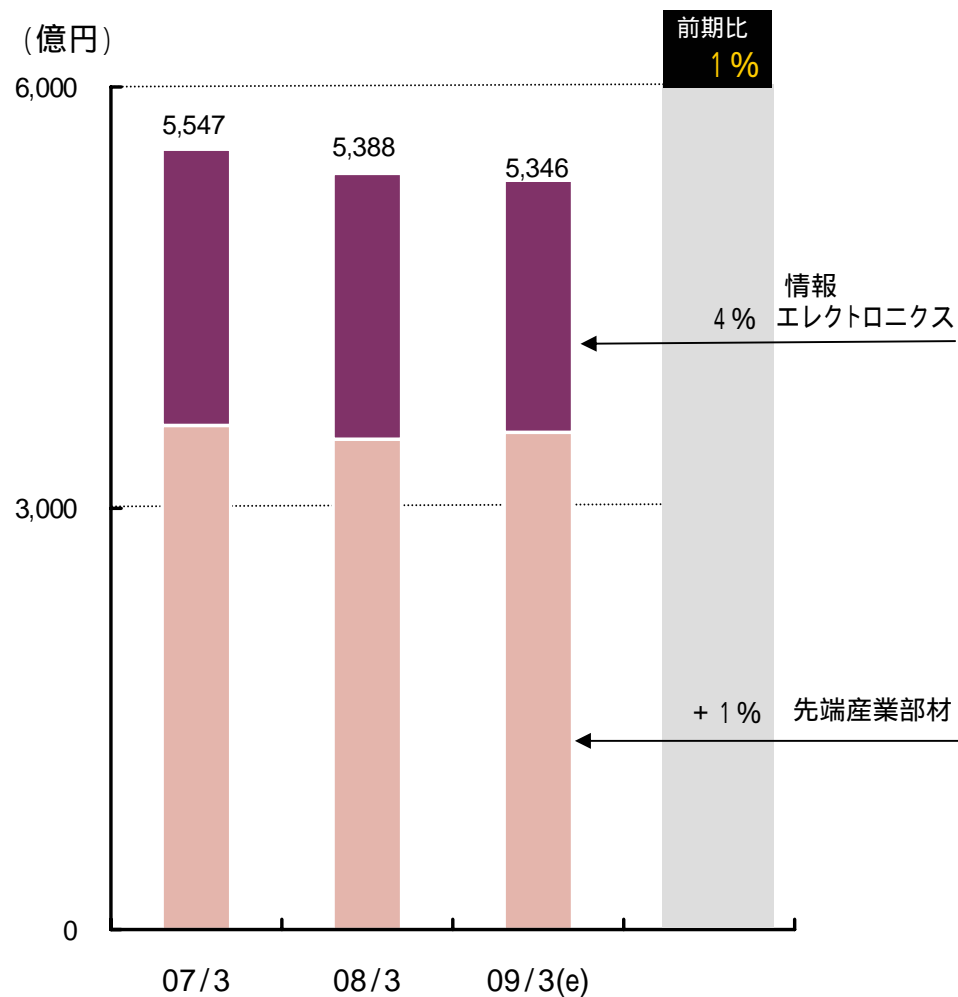
(*) Electronics Manufacturing Service

前期比増減説明と今後の取り組み

- ・高密度実装・実効生産性能の訴求によるシェア拡大により対前期比で大幅増加を見込む
- ・今後の取り組み
 - グローバル営業力・サービス力強化によるCS向上、海外拠点人員増強を継続
 - 新工場(08年4月から稼動)での生産効率向上と製品開発のスピードアップ

(注) 前回予想は07年4月の07年3月期決算発表時の予想

売上高の推移



(注) チップマウンタ等自社製品は除く

基本方針

トレーディング
モデル

優良仕入先との強い
信頼関係に基づく商事活動

さらに「付加価値提供」モデルへ進化

SCM型

調達ソリューション
電力変電設備海外生産

投資型

設備貸与による薄型TV部材生産
海外ベンチャーへの資本参加

ファブレス型

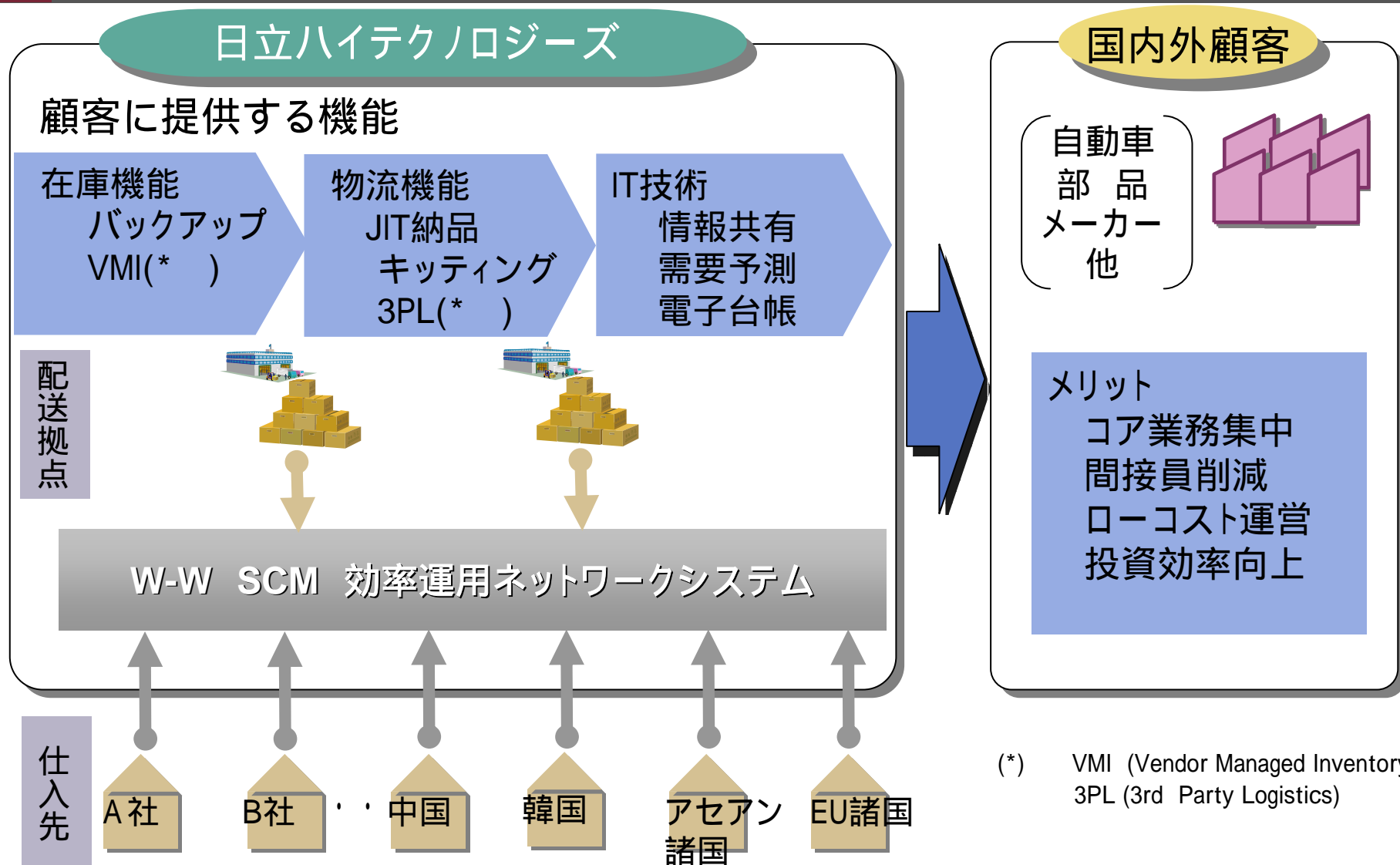
自社ブランドTV会議 ハイテクビジョン
海外EMS活用によるブロードバンド製品

メーカー型

設計・製造工程ソリューション(見える化)
金融情報コンテンツサービス

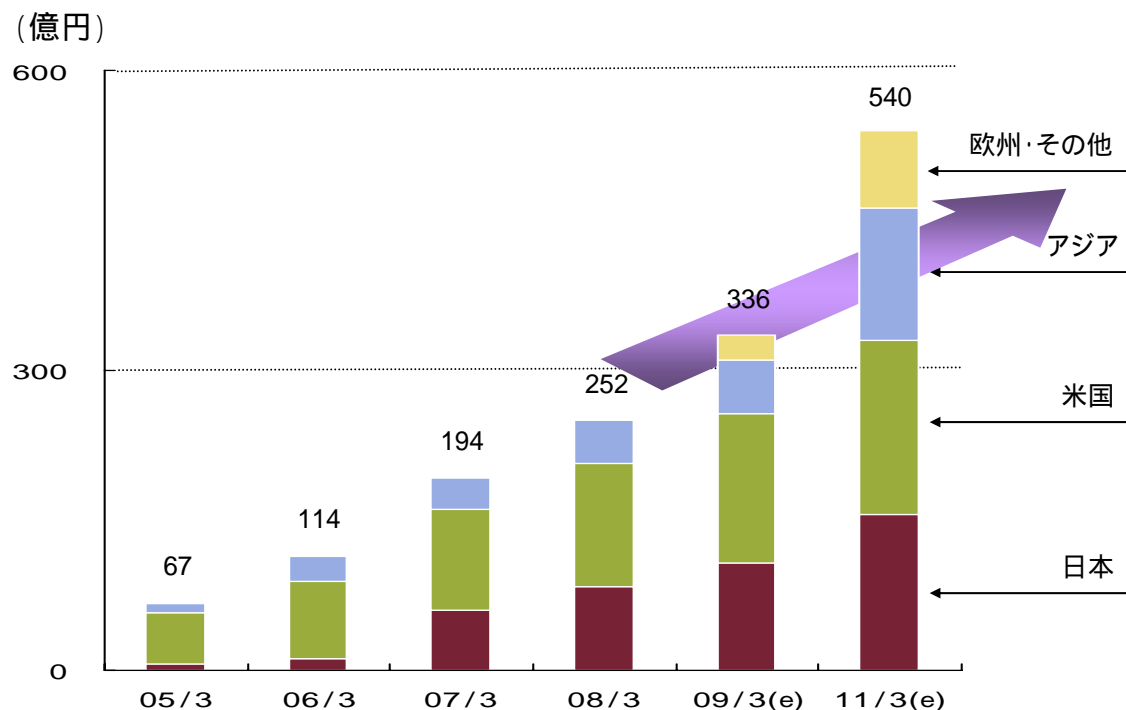
調達ソリューション事業(概要)

事業概要

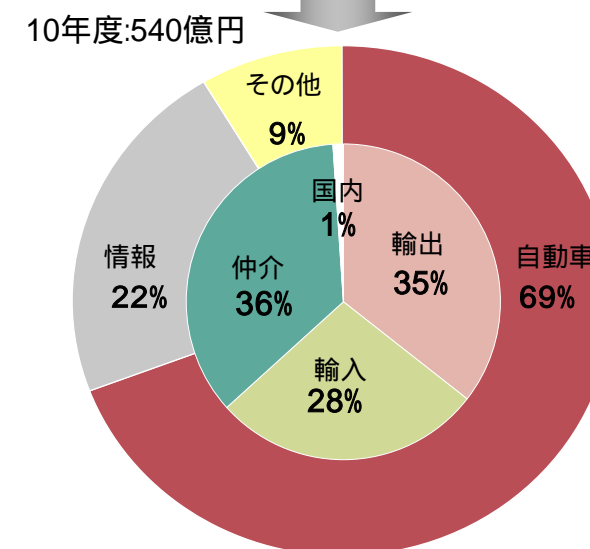
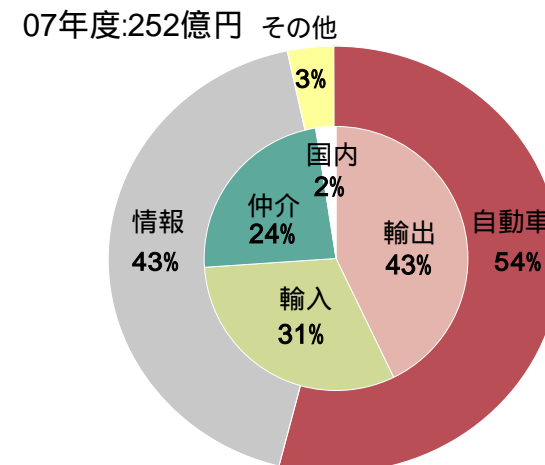


調達ソリューション事業(売上高の推移)

地域別売上高の推移



分野別・取引形態別売上高比率

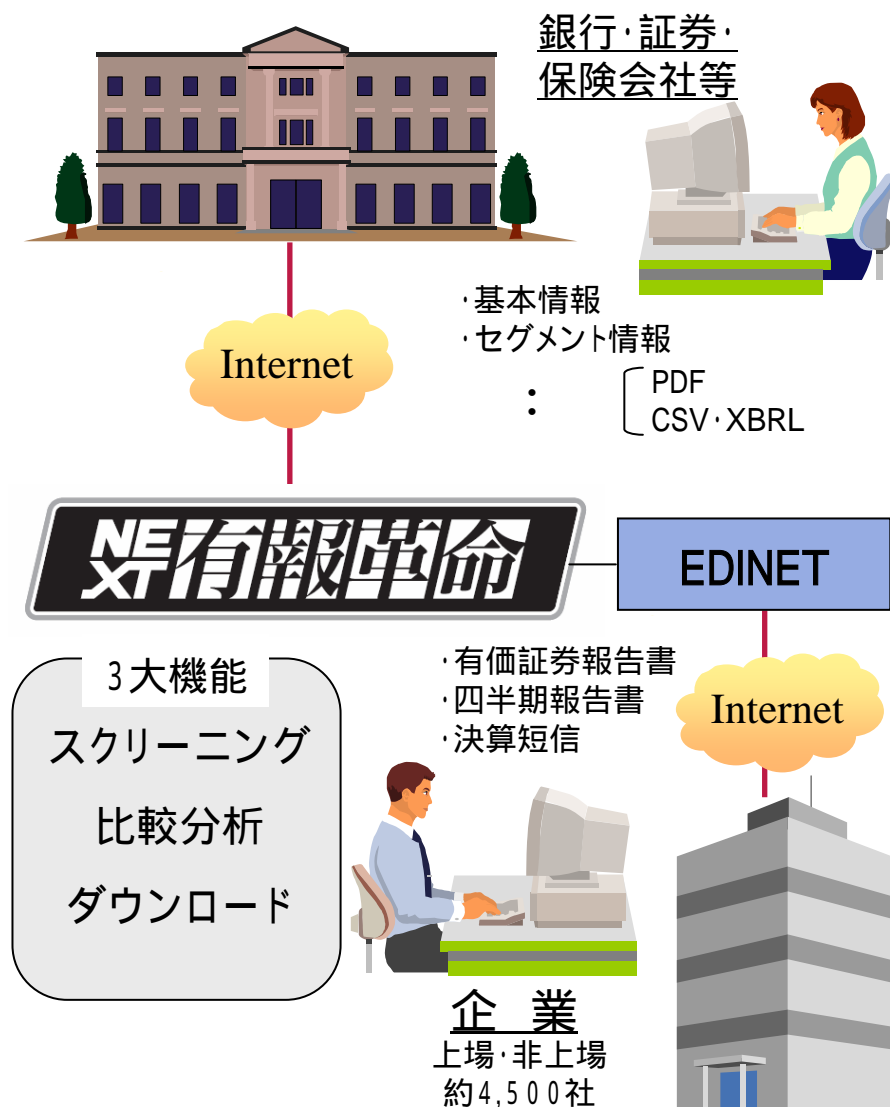


今後の取り組み

- ・10年度売上規模は、07年度比倍増を目指す
- ・自動車関連を中心にその他分野(アパレル等)への展開推進
- ・取引形態では仲介(out-to-out)取引を拡大

(ご紹介) 金融情報コンテンツサービス NEXT有報革命

NEXT有報革命の概要



(ご紹介) 金融情報コンテンツサービス NEXT有報革命



企業マスタ トップ画面

The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer browser window displaying the '有報革命 - Microsoft Internet Explorer' page. The address bar shows the URL: <https://www.next-yuho.com/NextSystem/master/CompanyMasterBaseInfoAction.do>. The page title is '有報革命 - Microsoft Internet Explorer'. The main content area displays the company master page for '株式会社日立ハイテクノロジーズ (401193) (8036)'. The page includes a search bar, navigation tabs, and a list of recent news items.

株式会社日立ハイテクノロジーズ (401193) (8036)

基本情報 | 開示情報 | セグメント | ランキング | グラフ分析

当該企業に関する全事項が確認できます。その他の企業はページ最上部の「簡易検索」で企業を指定、該当企業マスターをご覧ください。

最新情報 適時開示に限らず、企業より発表された情報が新しい順に表示されます。

- 2008/03/14 [大量保有報告書 全ページ](#)
- 2008/02/26 [適時開示 その他 持分法適用関連会社の異動等に関するお知らせ](#)
- 2008/02/22 [適時開示 その他 執行役の異動に関するお知らせ](#)
- 2008/01/25 [財務データ 第3四半期連結決算短信](#)
- 2008/01/25 [適時開示 第3四半期連結決算短信 平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況 2007-12月期: 売上高7135.57億円\(+1.47%↑\)\(予9400億円\) 経常利益323.5億円\(-1.61%↓\)\(予422億円\) 当期純利益202.34億円\(+3.15%↑\)\(予256億円\)](#)

企業情報 当該企業の基本情報をご確認いただけます。

証券コード: 8036	企業コード: 401193	業種: 卸売業(東証)	会計方式: 日本	設立年月日: 1947年04月12日
社名	株式会社日立ハイテクノロジーズ			
社名(英語)	Hitachi High-Technologies Corporation			
事業の特色	商社から出発、日立の計測器・半導体装置部門統合し製造主体に。医用分析装置が成長。無借金			
住所	東京都港区西新橋一丁目24番14号	電話	03-3504-7111	
代表者	代表執行役社長 大林秀仁	筆頭株主	株式会社日立製作所	保有比率 51.41%
定款	定款PDF(2006/06/23)	監査法人	新日本監査法人	
事業部	・電子デバイスシステム(27.46%)・ライフサイエンス(9.94%)・情報エレクトロニクス(24.87%)・先端産業部材(37.73%)			
上場年月日	1971年10月01日	上場場所	東証1・大証1	決算月 3月 発行済株式数 137,738,730株
取引先銀行	みずほ、三井住友、三井住友	主幹証券	野村、日興、大和	単元株数 100株

参考:データ集

(注)YY/M(e)はYY年M月期予想を表しています。

四半期業績の推移

(億円)

	06年1Q	06年2Q	06年3Q	06年4Q	07年1Q	07年2Q	07年3Q	07年4Q
売上高	2,226	2,467	2,339	2,484	2,251	2,621	2,263	2,296
営業利益	88	121	108	134	87	146	81	178
経常利益	98	124	107	114	91	147	86	164
当期利益	59	72	65	65	57	90	55	67

セグメント別売上高

(億円)

	06年1Q	06年2Q	06年3Q	06年4Q	07年1Q	07年2Q	07年3Q	07年4Q
電子デバイスシステム	571	662	628	760	635	766	587	661
ライフサイエンス	213	239	217	265	196	243	261	261
情報エレクトロニクス	583	633	576	583	546	700	543	539
先端産業部材	859	933	919	876	874	913	873	834

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	07 / 3	08 / 3	前期比	09 / 3(e)	前期比
設備投資額	106	113	+ 6 %	147	+ 31 %
減価償却費	76	89	+ 16 %	103	+ 16 %
研究開発費	191	206	+ 8 %	240	+ 17 %

(注) 設備投資額は取得ベースにて記載

前期比 増減説明(07年度)

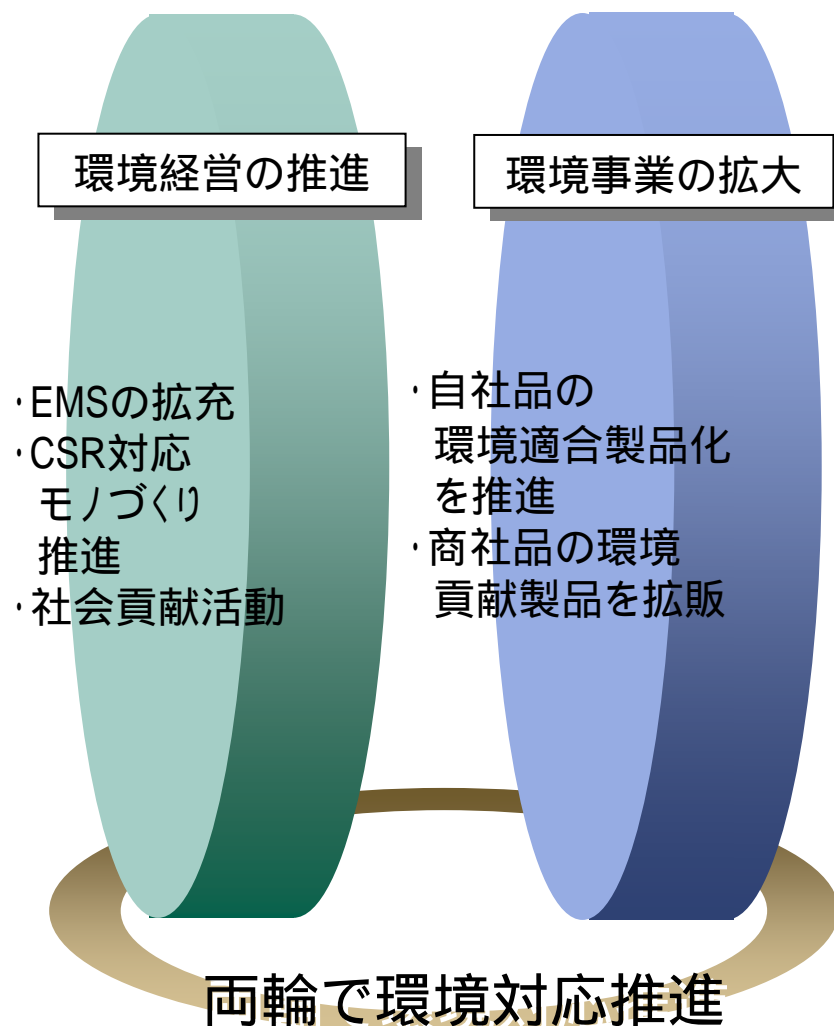
- 設備投資額: 7億円増加
 - ・チップマウンタ新工場建設など
- 研究開発費: 15億円増加
 - ・電子デバイスシステム、ライフサイエンスの要素技術開発など

主要製品群別売上高の状況

(億円)

	07 / 3	08 / 3	前期比	09 / 3(e)	前期比
電子デバイスシステム	2,622	2,648	+1%	2,345	11%
プロセス装置	627	748	+19%	488	35%
評価・解析装置	877	902	+3%	959	+6%
液晶関連製造装置	515	500	3%	510	+2%
HD関連製造装置	247	140	43%	107	24%
その他	356	358	1%	281	22%
ライフサイエンス	933	962	+3%	860	11%
バイオ関連機器	232	213	8%	218	+2%
医用関連製品	563	631	+12%	585	7%
その他	138	118	14%	57	52%
情報エレクトロニクス	2,374	2,327	2%	2,365	+2%
情報システム	837	910	+9%	817	10%
組立装置	292	334	+14%	411	+23%
半導体	432	394	9%	374	5%
メディアデバイス・情報通信	279	313	+12%	264	16%
その他	534	376	30%	499	+33%
先端産業部材	3,587	3,495	3%	3,530	+1%
工業材料	1,680	1,714	+2%	1,700	1%
電子デバイス材料	524	764	+46%	832	+9%
光関連部材	309	284	9%	286	+1%
その他	1,074	733	32%	712	3%

(ご参考) 環境経営・環境事業



- * 日本経済新聞(07年12月1日)
「環境経営度調査」商社部門
第1位(5年連続)
- * NewsWeek誌(08年2月13日)
「企業の社会的責任(CSR)
世界ランキング350社」
第71位(日本企業第13位)
- * 社会貢献活動の継続



[日立ハイテク
やさとの森]
植林活動継続中
地球温暖化防止に貢献

< 資料取り扱い上の注意 >

本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結です。

YY/M(e)はYY年M月期予想を表しています。

数値情報は、億円未満を四捨五入しています。

増減率は、基本的に円単位で計算しています。

本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに策定されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況、為替相場など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



END

2008年3月期 決算説明会

お問合せ先
社長室 広報・IRグループ 部長代理 加藤 弘之
TEL: 03-3504-5138 FAX: 03-3504-5943
E-mail: kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

日立ハイテク

最先端を、最前線へ。